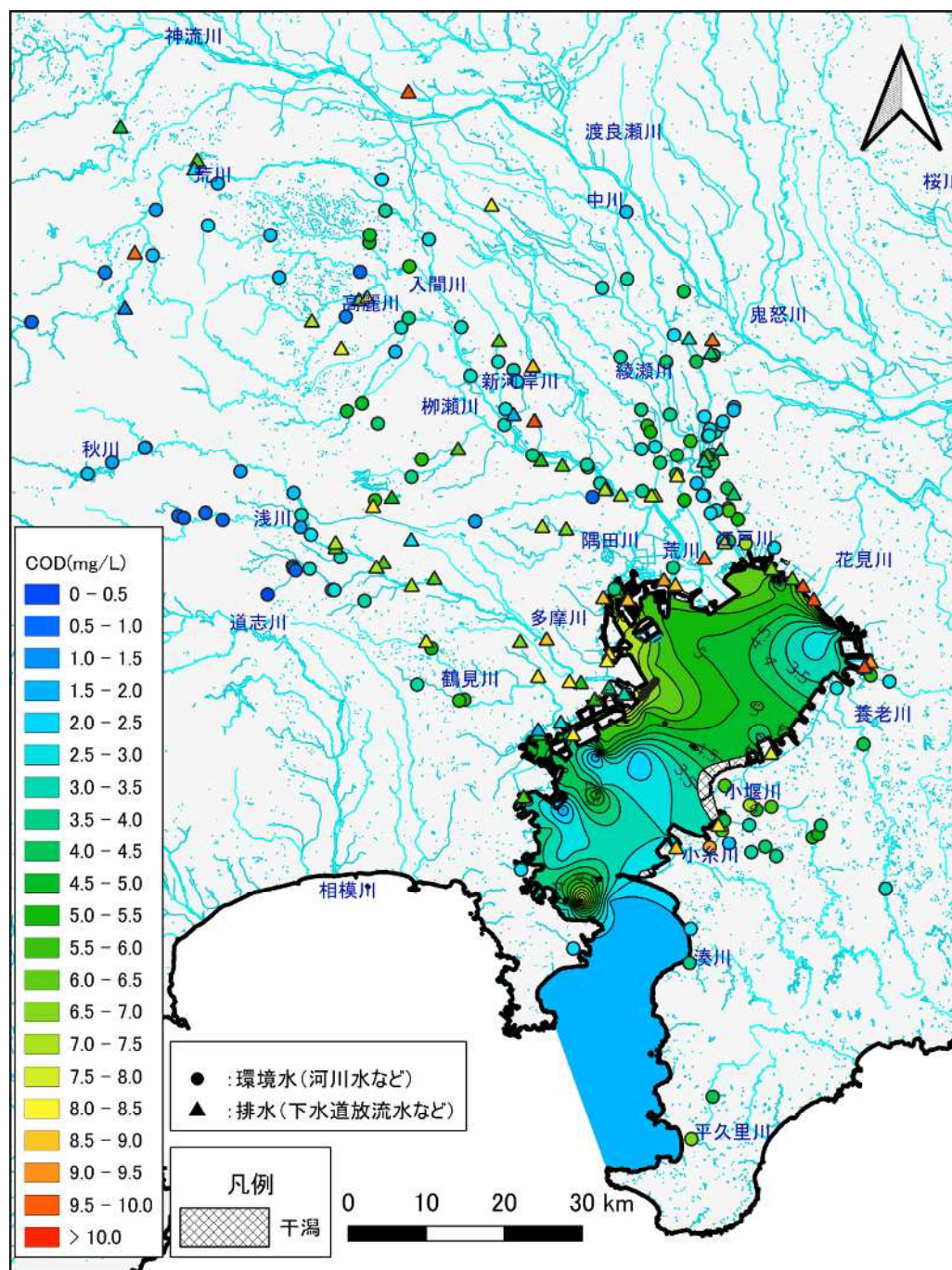


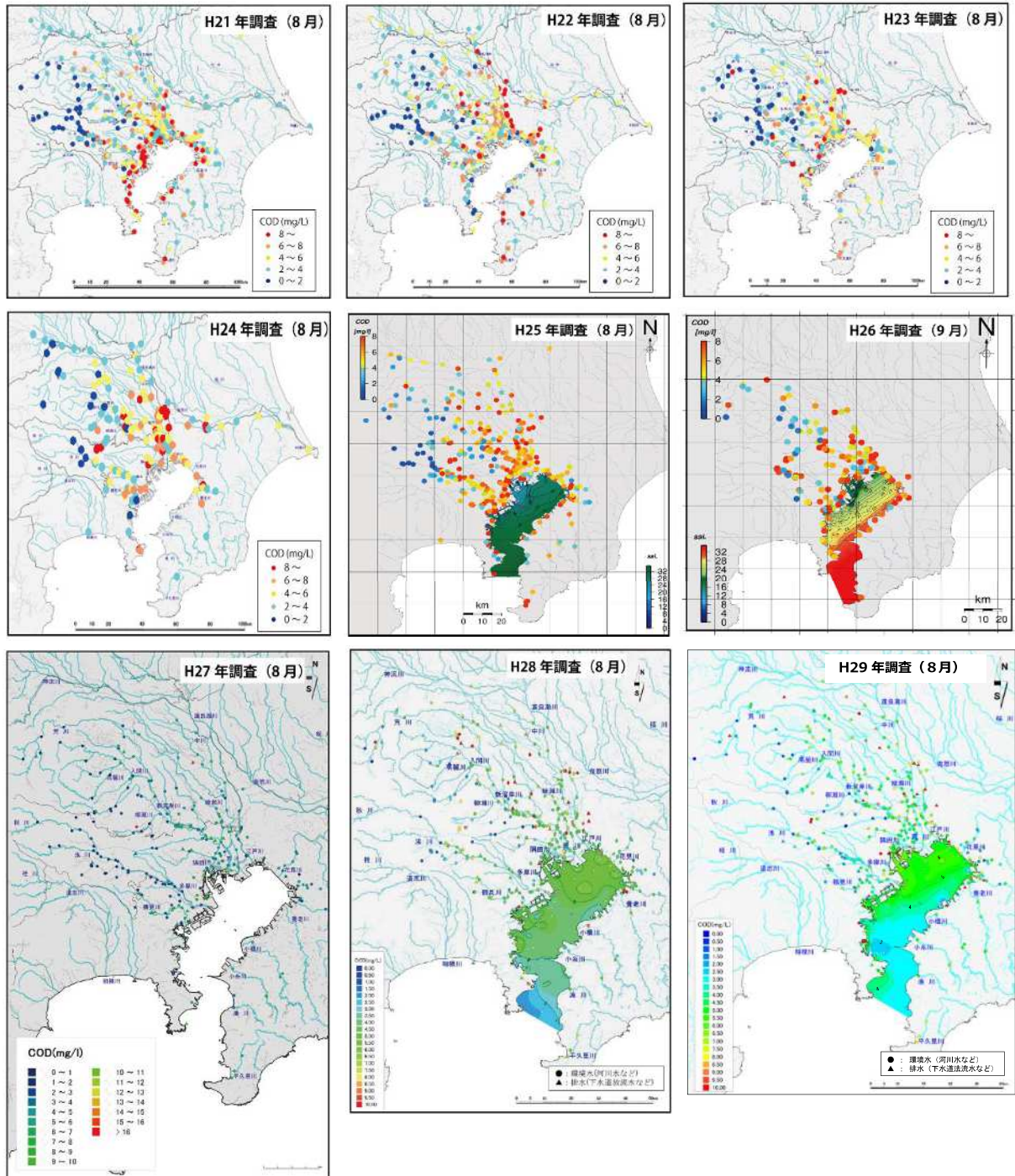
6. 河川・湖沼の調査結果

令和 6 年の河川の COD の状況は、図 6-1 のとおりです。平成 21 年から令和 6 年までの 16 年間の河川等の COD の状況は図 6-2 に示すとおりです。COD の値は、例年、都市郊外の河川上流域で低く、市街地の発達した河川下流域で高い傾向にあります。令和 6 年は利根川・鶴見川では河川上流域で高い傾向にありました。各河川の詳細は、次項「7. 東京湾に流入する主な河川の状況」を参照してください。



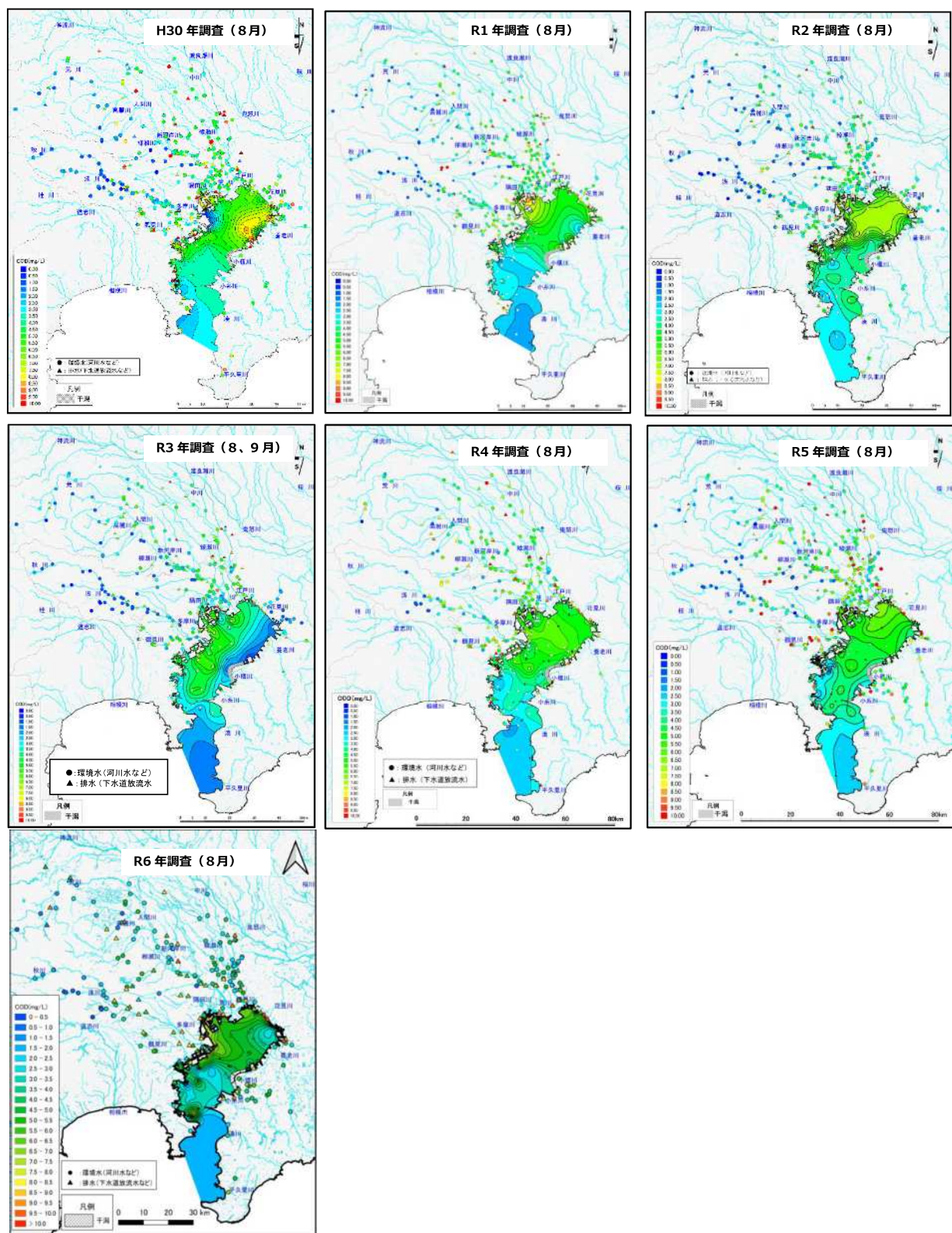
調査基準日前後の調査結果を含む。

図 6-1 令和 6 年 8 月の COD の状況



調査基準日前後の調査結果を含む。(次頁へ続く。)

図 6-2a 平成 21 年～平成 29 年（平成 26 年は 9 月、その他は 8 月）の
COD 観測結果の比較



調査基準日前後の調査結果を含む。

図 6-2b 平成 30 年～令和 6 年（令和 3 年は 8 月及び 9 月、その他は 8 月）の COD 観測結果の比較

7. 東京湾に流入する主な河川の状況

東京湾及びその流域図を図 7-1 に示します。東京湾の流域には、東京湾に接する千葉県、東京都、神奈川県のほか、埼玉県が広い面積を持っており、茨城県、山梨県の一部も含まれます。東京湾流域の河川は、陸域から東京湾へ淡水とともに物質を供給する役割を持っており、流域の環境は東京湾の水環境に影響を与えています。東京湾に流入する主な河川としては多摩川、荒川、利根川、鶴見川水系があげられます。

令和 6 年度東京湾環境一斉調査では、河川等の水質調査のデータを収集しました。東京湾流域における主な河川の水温、流量、化学的酸素要求量（COD）、溶存酸素量（DO）、透視度の状況を、水系ごとに図 7-2 から図 7-31 に示します。

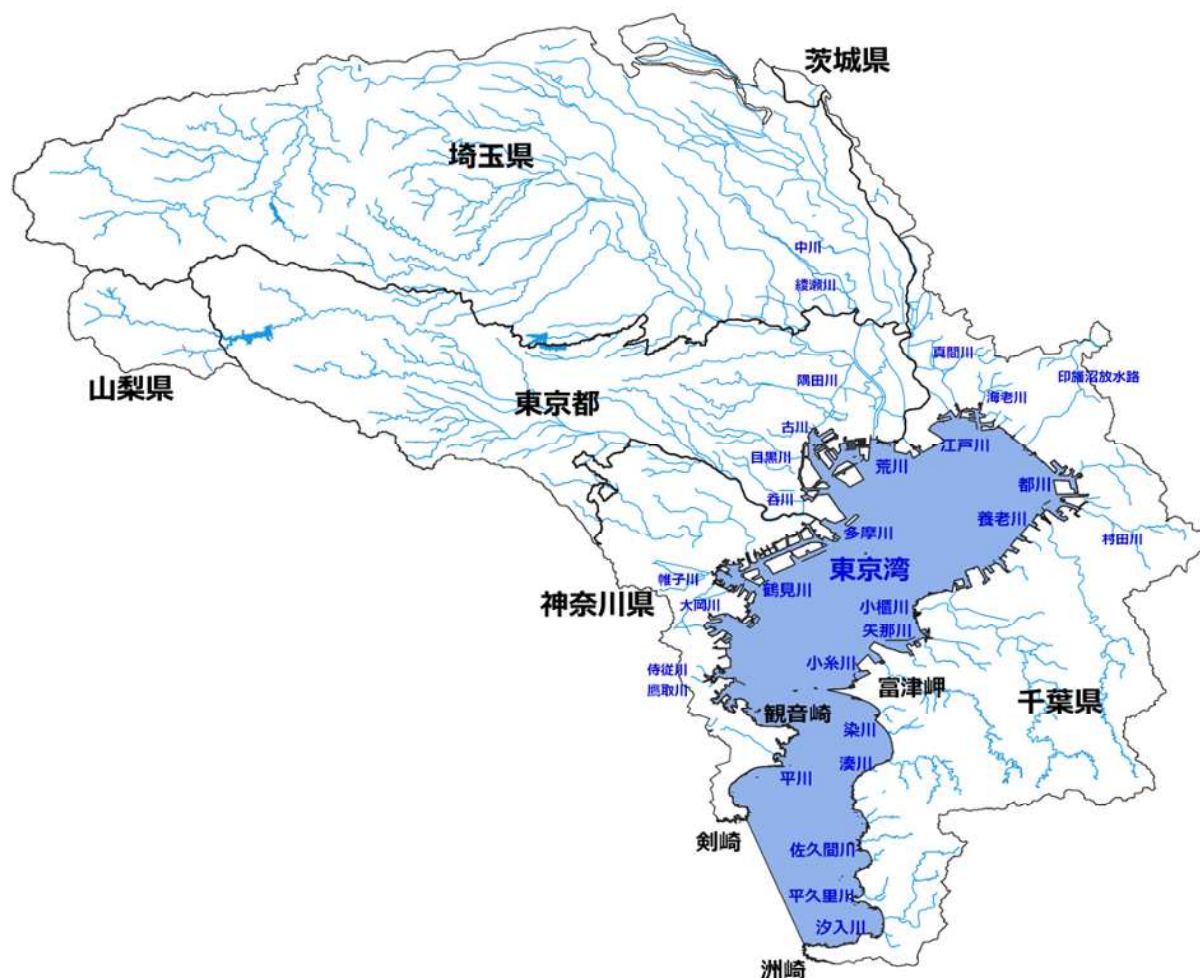


図 7-1 東京湾及びその流域図

(1) 多摩川水系

多摩川水系において、水温は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。

流量は、本流では、概ね上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。支流では、 $0.1\sim 5.1\text{ m}^3/\text{s}$ で推移していました。

COD は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、河口からほぼ横ばいで、40 km 付近から上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。

DO は、本流は、概ね上流から下流に向かって減少しているように見える傾向は、水温上昇による影響と思われます。支流は、 $5.5\sim 12.1\text{ mg/L}$ の範囲でばらつきが見られました。

透視度は、本流支流ともに概ね上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-2 多摩川水系流域における調査点図

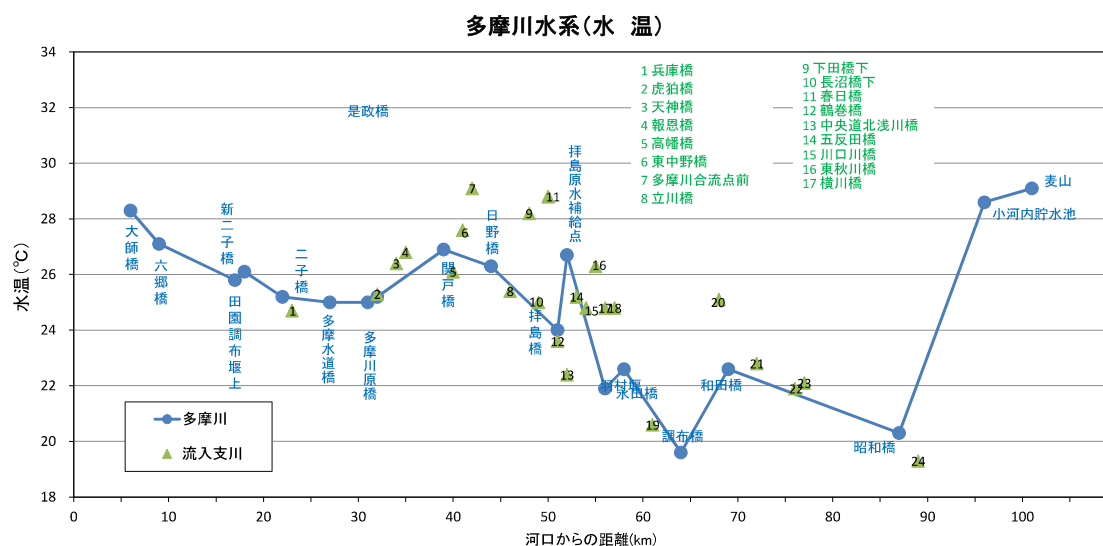


図 7-3 多摩川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

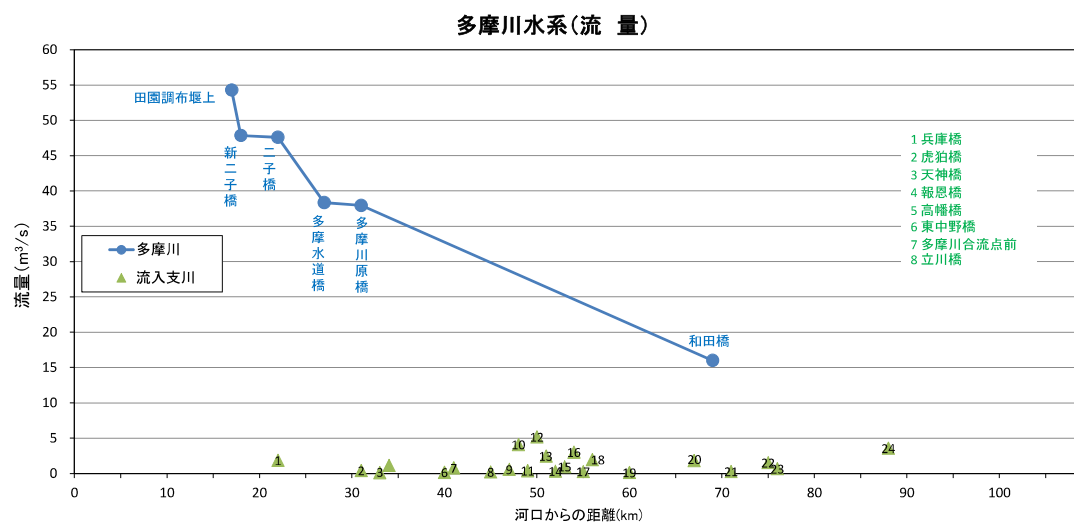


図 7-4 多摩川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

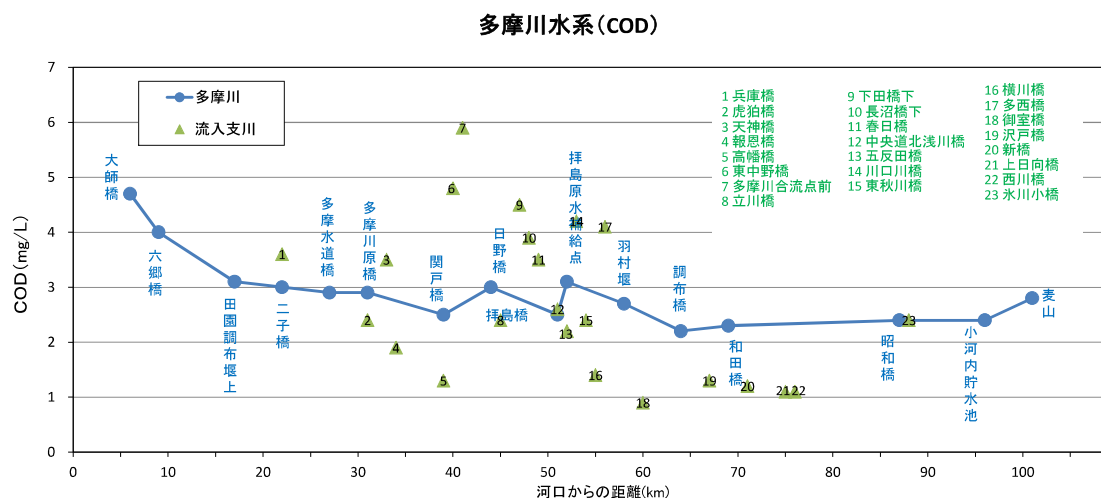


図 7-5 多摩川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

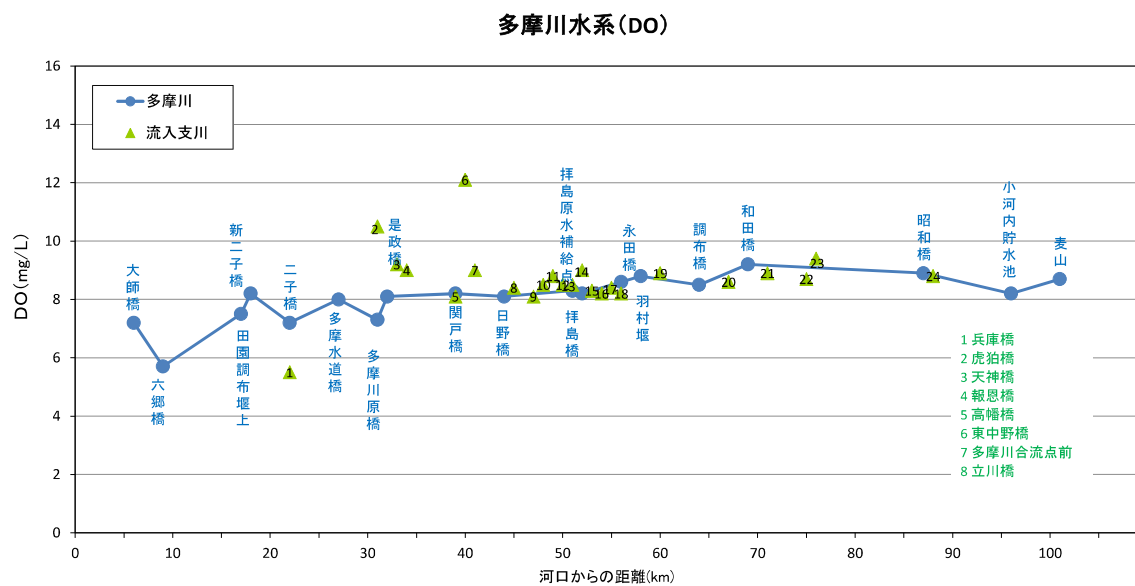


図 7-6 多摩川水系における DO (8月) と河口からの距離の関係

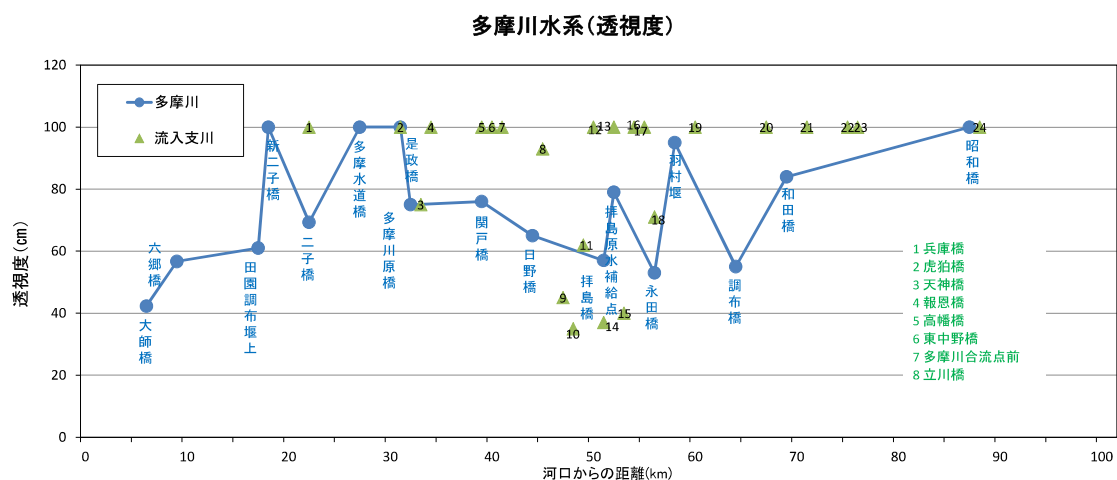


図 7-7 多摩川水系における透視度 (8月) と河口からの距離の関係

(2) 荒川水系

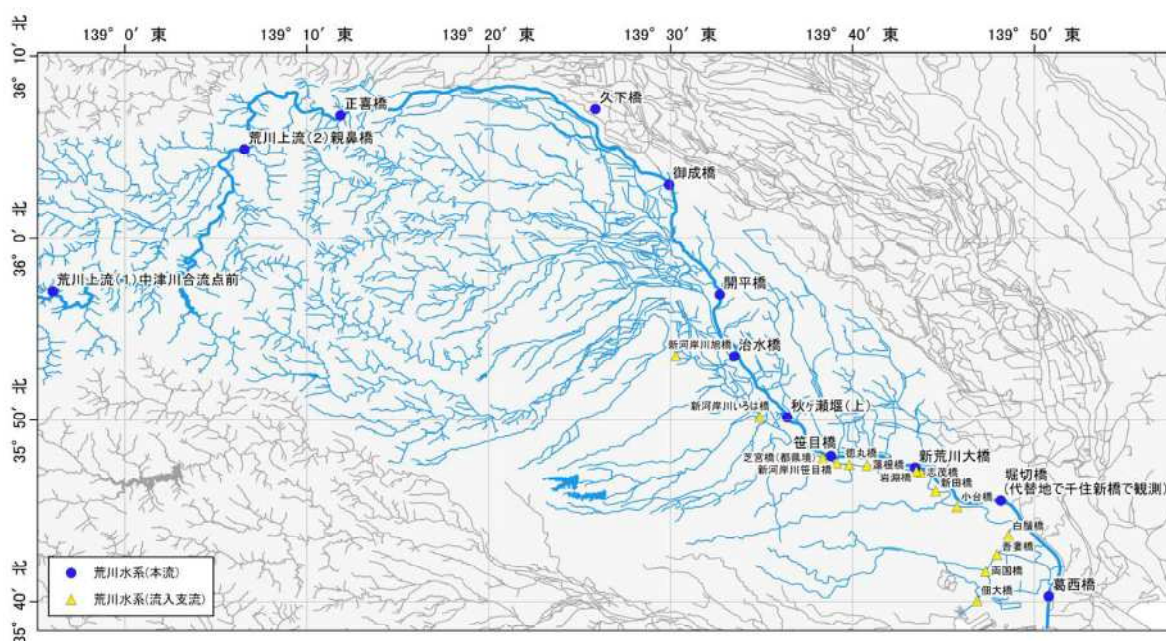
荒川水系において、水温は、荒川、隅田川、新河岸川ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。

流量は、本流支流ともに、上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。

COD は、本流支流ともに、概ね上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。

DO は、本流支流ともに、概ね上流から下流に向かって減少しているのは、海域の貧酸素水塊の影響を受けている可能性があります。

透視度は、本流は、概ね上流から下流に向かって低下する傾向が見られ、隅田川、新河岸川では、ばらつきが見られました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-8 荒川水系流域における調査点図

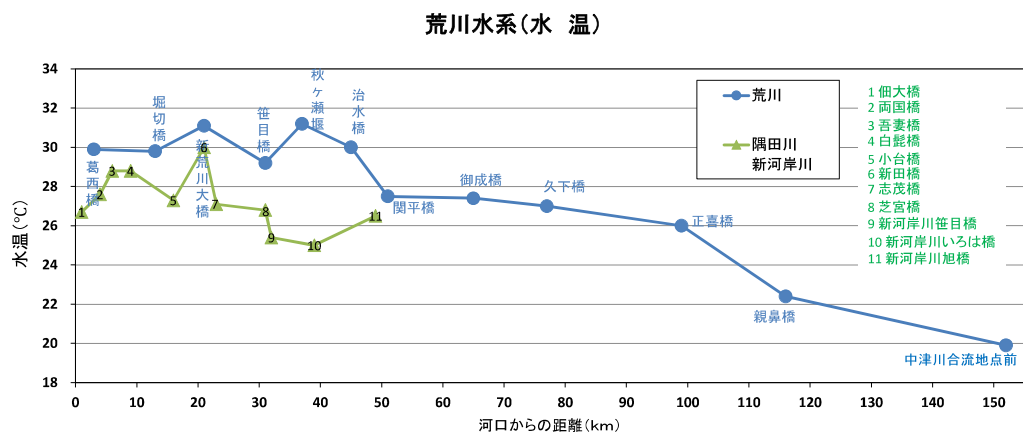


図 7-9 荒川水系における水温（８月）と河口からの距離の関係

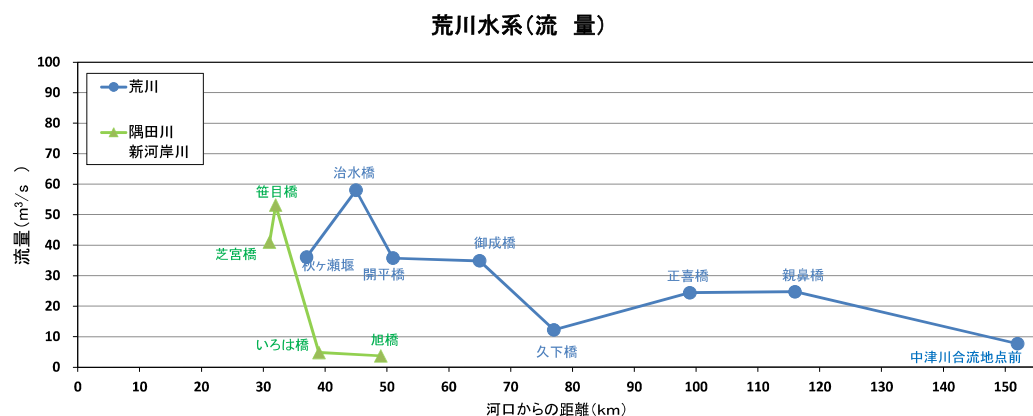


図 7-10 荒川水系における流量（８月）と河口からの距離の関係

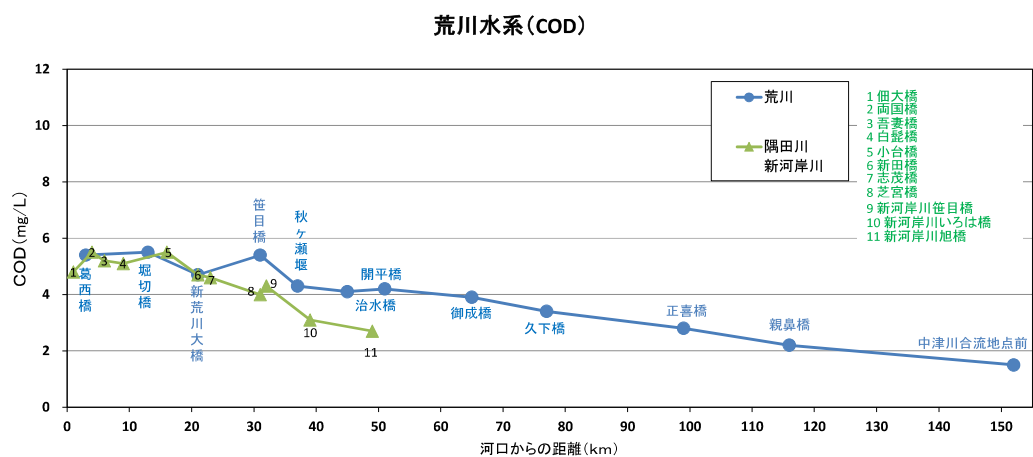


図 7-11 荒川水系における COD（８月）と河口からの距離の関係

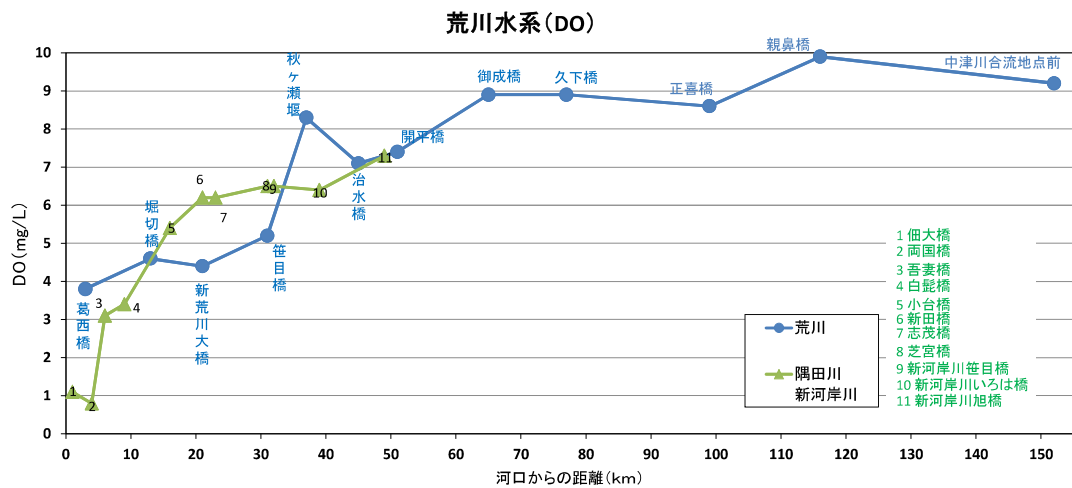


図 7-12 荒川水系における DO（8 月）と河口からの距離の関係

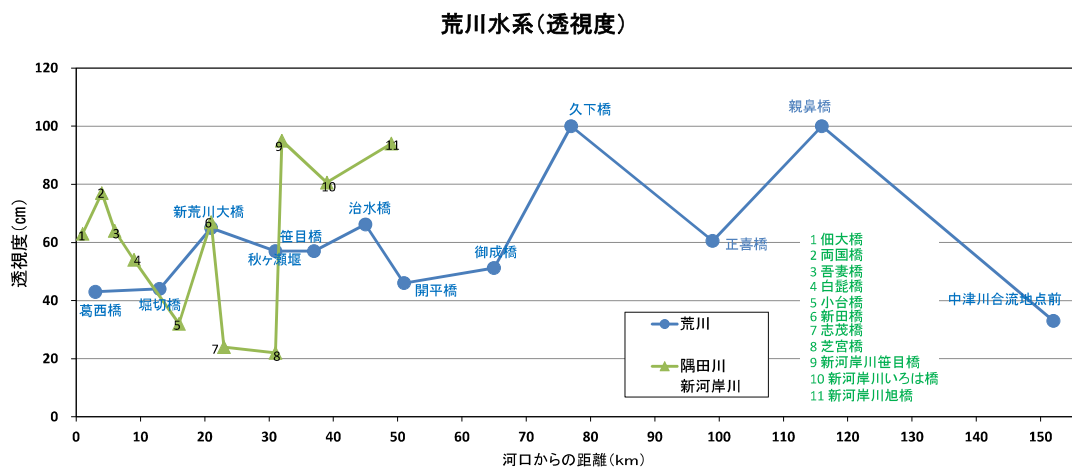


図 7-13 荒川水系における透視度（8 月）と河口からの距離の関係

透視度は、中川、江戸川ともにばらつきがありましたが、上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。綾瀬川では、ばらつきがありましたが、上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。



- 37 -

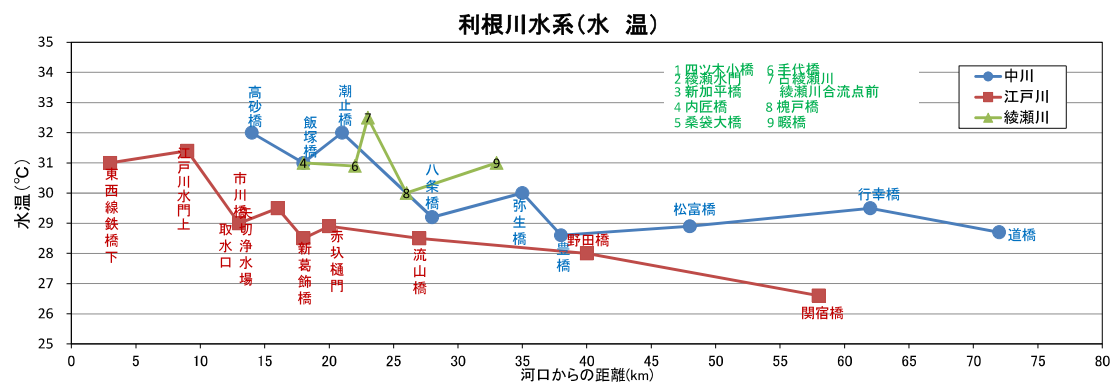


図 7-15 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における水温（8月）と河口からの距離の関係

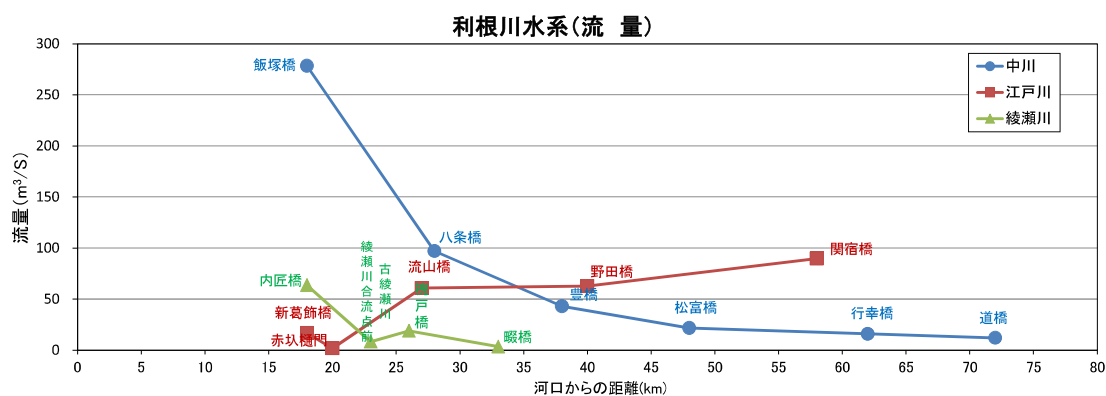


図 7-16 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における流量（8月）と河口からの距離の関係

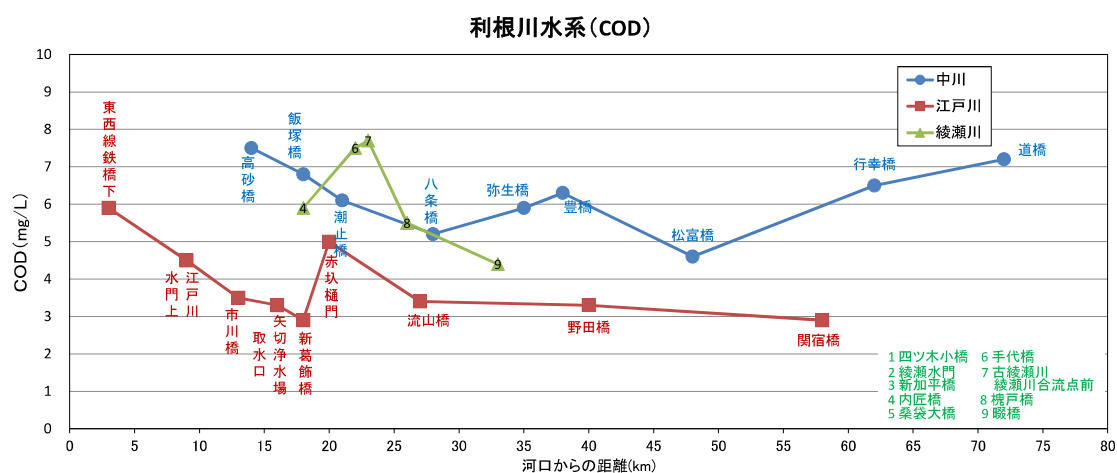


図 7-17 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における COD（8月）と河口からの距離の関係

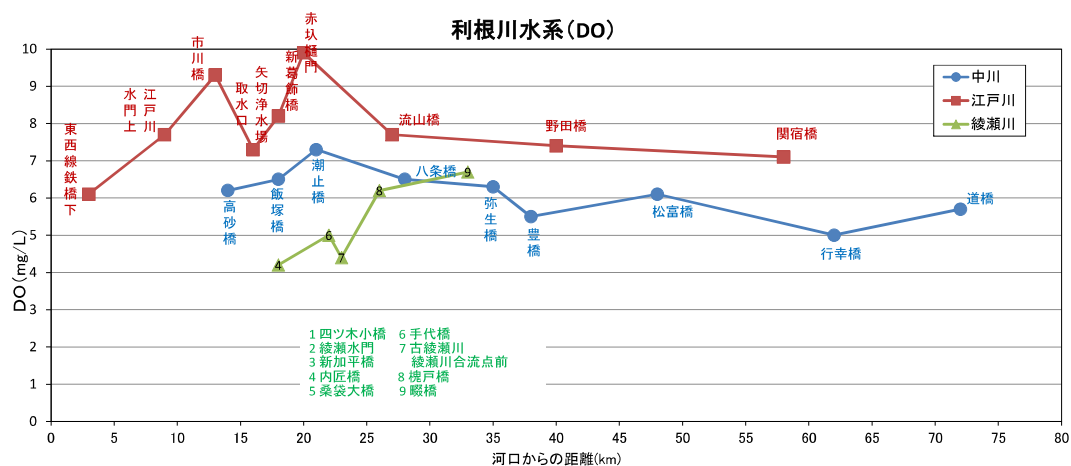


図 7-18 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における DO（8月）と河口からの距離の関係

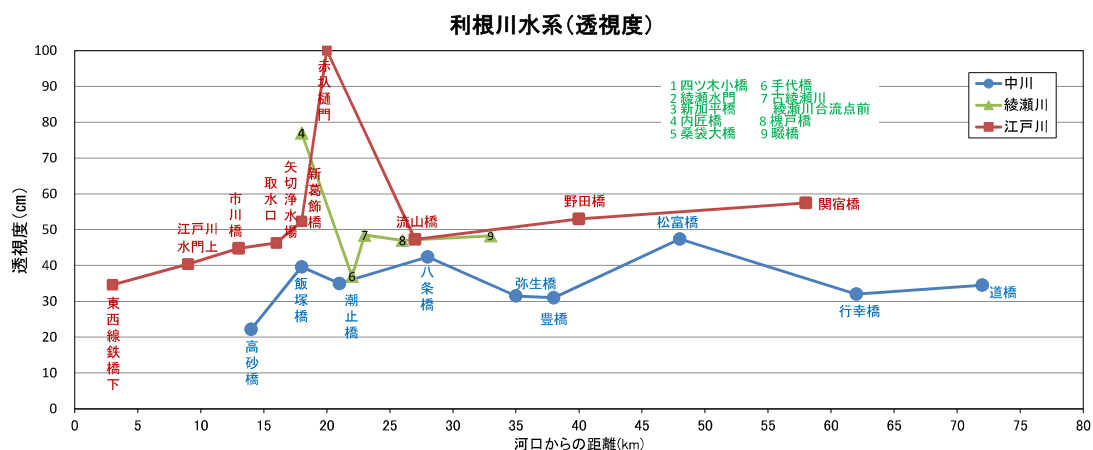


図 7-19 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における透視度（8月）と河口からの距離の関係

(4) 鶴見川水系

鶴見川水系において、水温は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。

流量は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流へ向かって増加する傾向が見られました。

COD は、本流は、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。支流は、3.0～5.2 mg/L の範囲でばらつきが見られました。

DO は、本流支流ともに、水温上昇に伴う飽和状態となっている傾向が見られました。

透視度は、本流支流ともに、74 cm～測定最大限界の 100 cm の範囲に含まれました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-20 鶴見川水系流域における調査点図

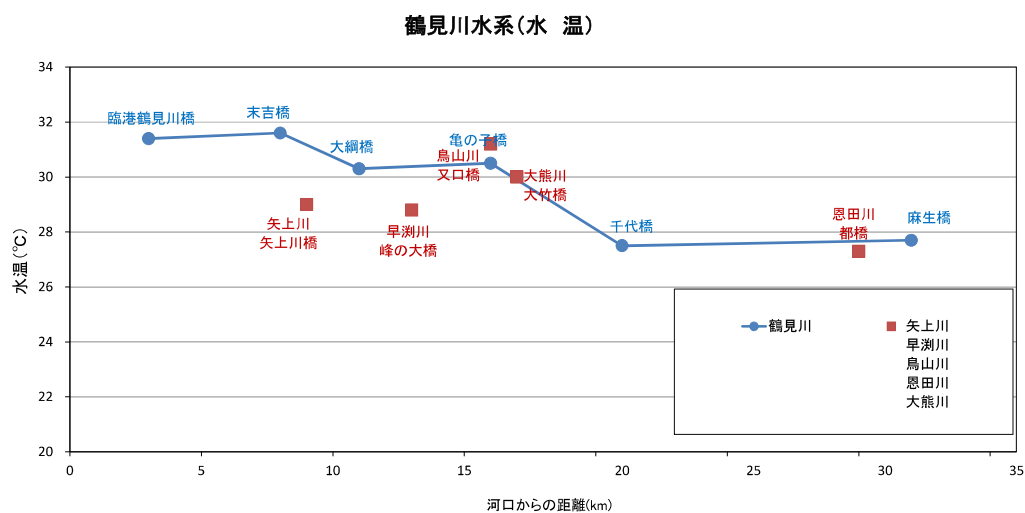


図 7-21 鶴見川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

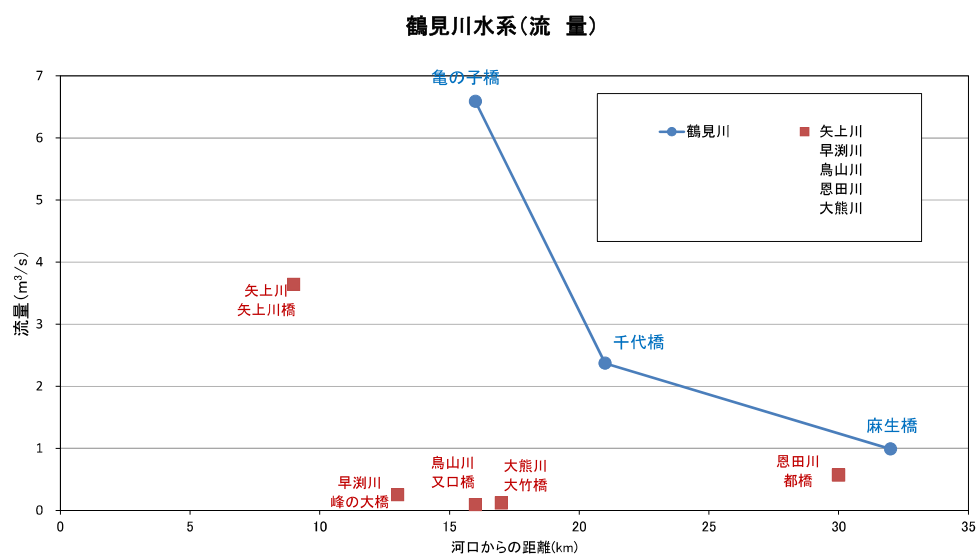


図 7-22 鶴見川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

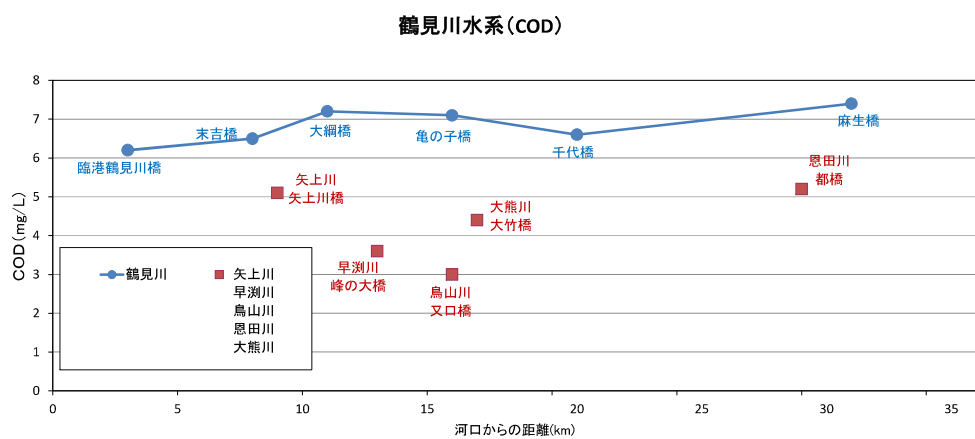


図 7-23 鶴見川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

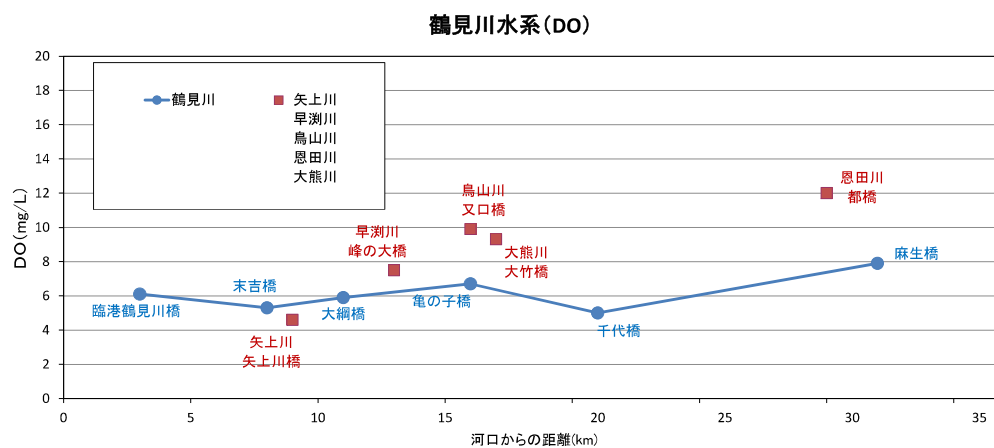


図 7-24 鶴見川水系における DO（8月）と河口からの距離の関係

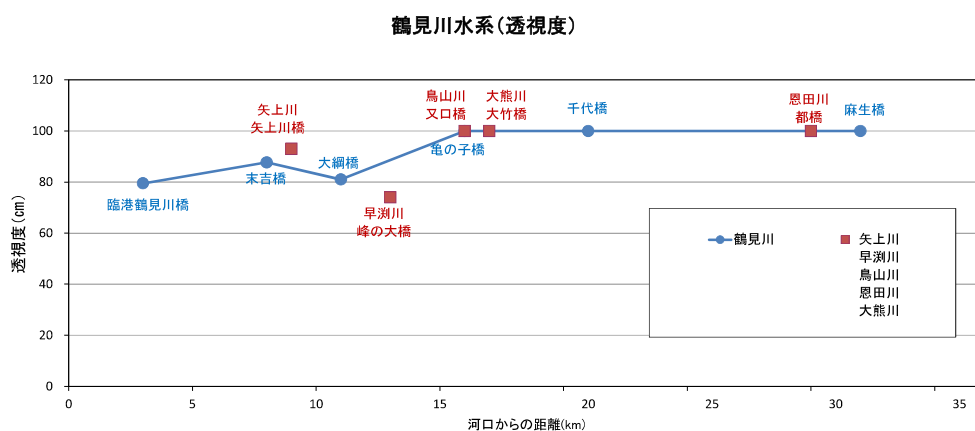


図 7-25 鶴見川水系における透視度（8月）と河口からの距離の関係

8. 生物調査の実施実績

令和6年度の東京湾環境一斉調査における生物調査では、干潟調査及びその他の調査が実施されました。調査参加機関のレポートに記載された参加状況を合算したところ、干潟調査（8-1）には延べ317名が参加し、その他の調査（8-2）についても多くの機関によって調査が行われており、大勢の参加者によって生物調査が実施されました。

8-1 干潟調査

（1）干潟調査の概要

令和6年度は多摩川河口、浦安市日の出地先等の干潟を対象として調査が実施されました。また、より多くの方に東京湾を身近に感じてもらうため、昨年度に引き続き、干潟調査の一環として「カニ生息一斉調査」も実施されました。

（2）調査参加機関

令和6年度は、5団体から干潟調査の結果について報告があり（表8-1）、そのうちの2団体によりカニ生息一斉調査が実施されました。

表 8-1 干潟調査の実施実績

レポート番号 掲載ページ	実施機関	調査場所	実施日
① p. I-1	大田区環境マイスターの会	多摩川河口大田区側	6月22日 7月19日
② p. I-21	浦安市三番瀬環境観察館	浦安市日の出地先	7月7日 7月11日 7月21日 7月28日 8月18日 8月23日 9月15日
③ p. I-25	横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」	8月2日
④ p. I-28	横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査		8月20日
⑤ p. I-31	横浜港湾空港技術調査事務所 釣り調査		9月17日 9月18日

(3) 干潟調査の結果

令和6年度の干潟調査は、5団体により3地点で実施されました(図8-1)。その結果、16綱129種の生物の生息が確認されました(表8-2)。

さらに今回確認された生物種について、環境省レッドリスト2020(令和2年3月)及び環境省版海洋生物レッドリスト(平成29年3月)¹への掲載の有無を調べたところ、絶滅危惧Ⅱ類(VU)と評価される種が2種、準絶滅危惧(NT)と評価される種が5種含まれていることが確認できました。また、生態系被害防止外来種リスト(環境省及び農林水産省、2016)²への掲載の有無について調べたところ、特定外来生物は含まれていなかったものの、総合対策外来種が5種含まれていることがわかりました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院(GSI)

図 8-1 干潟調査の実施地点と確認された生物種

¹ 環境省レッドリスト／海洋生物レッドリスト：評価カテゴリーは絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT)、情報不足(DD)、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)の8つに分けられる。絶滅危惧Ⅱ類(VU)は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧(NT)は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」と定義される。

² 生態系被害防止外来種リスト：定着を予防する外来種(定着予防外来種)、総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)、適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)の大きく3つに分類される。

表 8-2 干潟調査で確認された生物種

綱	科	種名		東京	千葉	神奈川	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリス ト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名	多摩川 河口大田区側	浦安市 日の出地先	潮彩の渚		
							カテゴリ	カテゴリ
単子葉植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>					
鉢虫	オキクラゲ	アカクラゲ	<i>Chrysaora pacifica</i>	○				
	ミズクラゲ	ミズクラゲ	<i>Aurelia cf. coerules</i>	○				
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>		○	○		
	ホウザワソギンチャク	ホウザワソギンチャク	<i>Syandwakia hozawai</i>		○			
	ウミザボテン	ウミザボテン	<i>Cavernularia obesa</i>					
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	○				
		カワゴカイ属	<i>Hediste</i> sp.					
		アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>		○			
		オウギゴカイ	<i>Nectonanthus latipoda</i>		○			
		クマドリゴカイ	<i>Perinereis cultrifera</i>		○			
		デンガクゴカイ	<i>Pseudonereis variegata</i>		○			
		コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>		○			
		ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>		○			
		-	-	○				
	イトゴカイ	-	-	○				
	カンザシゴカイ	-	-					
	イソメ	イソメシ種群	-		○			
	ヒコイソメ	アカムシ	<i>Hella okudai</i>		○			
	オナデインソメ	オナデインソメ	<i>Diopatra sugokai</i>		○			
	ギボシイソメ	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		○			
	スピオ	Parapriopio属	-					
		シノバハネエラスピオ	<i>Parapriopio patiens</i>		○			
		マダガスピオ	<i>Polydora brevipalpa</i>		○			
		-	-		○			
チロリ	ヒガタチロリ	-	<i>Glycera macintoshi</i>		○			
	-	-	-		○			
	ミスヒキゴカイ	ミスヒキゴカイ種群	-		○	○		
	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ	<i>Aricidea brasiliensis</i>		○			
	オフェリアゴカイ	ツツオオフェリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>		○			
	ツバサゴカイ	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>		○			
	シリシ	シロマダシリシ	<i>Syllis adamantea</i>		○			
	ウロコムシ	ハモチウロコムシ	<i>Lepidonotus dentatus</i>		○			
(紐形動物)	-	-	-	○	○			
腹足	ニシキウスガイ	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>		○		準絶滅危惧 (NT)	
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>	○	○	○		
	アッキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>		○	○		
		アカニシ	<i>Rapana venusta</i>			○		
	ウミナ	カサガイ	<i>Calliostoma truncatularia</i>					
	カノコキセウタ	ヤミヨキセウタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>		○		絶滅危惧II類 (VU)	
	タマキビガイ	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>		○			
		アラレタマキビ	<i>Nodilittorina radiata</i>		○			
	カワザシヨウガイ	-	-					
	タマガイ	ボソノツメタ	<i>Neverita didyma hosoyai</i>					
	オオシノミガイ	ムラサキシノミガイ	<i>Japonactaeon nipponensis</i>				準絶滅危惧 (NT)	
	アッキガイ	レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>		○			
	カリバガサ	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>		○	○		
	トウガタガイ	ヒガタトウガタガイ	<i>Argopecten argus</i>		○		情報不足 (DD)	総合対策外来種
	ヘコミツラガイ	コメツラガイ	<i>Retusa insignis</i>		○			
	リュウテン	コシダカガンガラ	<i>Tegula rustica</i>		○			
二枚貝	イガイ	ホトギスガイ	<i>Musculista senhousia</i>	○	○			
		ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>					総合対策外来種
		ストライイガイ	<i>Perna viridis</i>			○		総合対策外来種
		コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>		○			総合対策外来種
	イタボガキ	マダガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○	○	○		
	マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○	○	○		
		モノマテガイ	<i>Solen kusanterii</i>		○			
	オキナガイ	オキナガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	○				
	シジミ	ヤマシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○			準絶滅危惧 (NT)	
	マルスダレガイ	オキシジミ	<i>Cyclina aff. sinensis</i>	○	○			
		ホシビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	○	○			総合対策外来種
		ハマグリ	<i>Meretrix fusoria</i>	○			絶滅危惧II類 (VU)	
		ハマグリ属の一種・未同定	<i>Meretrix</i> sp.		○			
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		○	○		
		カガミガイ	<i>Dosinia japonica</i>		○			
		チリハギガイ	<i>Lasaea undulata</i>		○			
カキ	カキ	-	-	○				
	ニッコウガイ	サビシラトリ	<i>Macoma contabulata</i>	○			準絶滅危惧 (NT)	
		ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>		○			
		サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>		○		準絶滅危惧 (NT)	
	バカガイ	バカガイ	<i>Macra chinensis</i>		○			
		シオアサガイ	<i>Macra quadrangularis</i>	○	○	○		
	チトセハナガイ	チノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>		○			
	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	<i>Ptericola</i> sp.		○			
	フネガイ	サルボウガイ	<i>Anadara kagoshimensis</i>			○		
多板	ケハダヒザラガイ	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>		○			

綱	科	種名		東京 多摩川河口大田区側	千葉 浦安市日の出地先	神奈川 潮彩の渚	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリスト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名					
							カテゴリ	カテゴリ
頭脚	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>					総合対策外来種
		タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		○	○		総合対策外来種
		ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>					
		シロシフジツボ	<i>Balanus albicostatus</i>		○			
		イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>	○	○	○		
	エボシガイ フナムシ	エボシガイ	<i>Lepas anatifera</i>					
		キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>		○			
		ミョウガガイ	<i>Pollicipes mitella</i>	○	○			
		ヤドカリ	<i>Dogesius nididimus</i>		○		情報不足 (DD)	
		コブコバサミ	<i>Clibanarius infirspinus</i>		○	○		
	ホンヤドカリ アナジャコ エビジャコ コメダシガニ	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>		○			
		アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	○				
		ウリタエビジャコ	<i>Crangon uritai</i>		○			
		チヨガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>			○		
		コメダシガニ	<i>Scorinera globosa</i>	○				
	オサガニ ベンケイガニ	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○				
		ベンケイガニ	<i>Orisarna intermedium</i>				準絶滅危惧 (NT)	
		クロベンケイガニ	<i>Orisarna dehaari</i>					
		カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>					
		アカテガニ	<i>Chironantes haematocheir</i>					
	イワガニ モクスガニ	オキナグイガニ	<i>Nipponesarma minutus</i>					
		ケフサイソガニ	<i>Plagus major</i>					
		タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○		○		
		ヒライソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>			○		
		イソガニ	<i>Gaeticus depressus</i>			○		
	アソハガニ コブシガニ スナガニ イソオウギガニ オウギガニ デナガエビ	アソハガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>			○		
		マメコブシガニ	<i>Helice tridens</i>			○		
		ヒラコブシ	<i>Philtra pisum</i>	○				
		スナガニ	<i>Philtra syndactyla</i>					
		スベスベオウギガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>			○		
	シワオウギガニ デナガエビ シラガエビ ユビナガシラガエビ イノシシエビ スジエビモドキ スジエビ属	シワオウギガニ	<i>Sphaerozius nudus</i>					
		シラガエビ	<i>Macromedaeus distinguendus</i>					
		ユビナガシラガエビ	<i>Eucratemon orientis</i>		○	○		
		イノシシエビ	<i>Macrorhachium nipponense</i>	○				
		スジエビモドキ	<i>Palaemon macrrodactylus</i>	○	○	○		
	コンボソコエビ テッポウエビ ヒゲナガコエビ スナウミナナフシ ウミナナフシ ヨロエビ	コンボソコエビ	<i>Palaemon pacificus</i>					
		テッポウエビ	<i>Palaemon serrifer</i>			○		
		ヒゲナガコエビ	-					
		スナウミナナフシ	<i>Grandidierella japonica</i>		○			
		ウミナナフシ	<i>Alpheus brevicristatus</i>		○			
	ヒゲナガコエビ コツブムシ ウレカラ ガザミ ミドリガニ	ヒゲナガコエビ	<i>Lysmata vittata</i>					
		コツブムシ	<i>Cyathura muromensis Nunomura</i>	○				
		ウレカラ	-	○				
		ガザミ	<i>Caprellia penantis</i>		○			
		ミドリガニ	<i>Caprellia scaura</i>		○			
	イソウミグモ シロボヤ ユウレイボヤ アカエイ ボラ マハゼ アシシロハゼ ヒメハゼ シモフシマハゼ チチブ アヘバハゼ マサゴハゼ ヒメハゼ ツマグロスシハゼ アゴハゼ アカヒシマハゼ ビリンゴ ドロメ ウロハゼ スマチチブ チチブ属	イソウミグモ	<i>Portunus trituberculatus</i>			○		
		シロボヤ	<i>Portunus pelagicus</i>					
		ユウレイボヤ	<i>Charybdis japonica</i>			○		
		アカエイ	<i>Carcinus aestuarii</i>					総合対策外来種
		ボラ	<i>Coenagrion sp.</i>					
	イソギンボ ナベカ イソギンボ	イソギンボ	<i>Gerris latahdominis</i>					
		ナベカ	<i>Annothea hilgendorfi</i>		○			
		イソギンボ	<i>Styela plicata</i>					
		ナベカ	<i>Styela clava</i>					
		イソギンボ	<i>Ciona intestinalis</i>			○		
	イソギンボ ナベカ イソギンボ	イソギンボ	<i>Dasyatis akabei</i>	○				
		ナベカ	<i>Mugil cf. cephalus</i>	○	○	○		
		イソギンボ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○	○	○		
		ナベカ	<i>Acanthogobius lactipes</i>					
		イソギンボ	<i>Eutaenichthys gilli</i>	○			準絶滅危惧 (NT)	
	イソギンボ ナベカ イソギンボ	イソギンボ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>		○			
		ナベカ	<i>Tridentiger obscurus</i>			○		
		イソギンボ	<i>Mugilogobius abei</i>					
		ナベカ	<i>Pseudogobius masago</i>				絶滅危惧II類 (VU)	
		イソギンボ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>		○			
	イソギンボ ナベカ イソギンボ	イソギンボ	<i>Acentrogobius sp.2</i>					
		ナベカ	<i>Chaenogobius annularis</i>		○			
		イソギンボ	<i>Tridentiger trigonoccephalus</i>					
		ナベカ	<i>Gymnogobius breunigii</i>					
		イソギンボ	<i>Chaenogobius gulosus</i>		○			
	イソギンボ ナベカ イソギンボ	イソギンボ	<i>Glossogobius olivaceus</i>					
		ナベカ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		○			
		イソギンボ	<i>Omobranchius punctatus</i>		○	○		
		ナベカ	<i>Omobranchius elegans</i>					
		イソギンボ	<i>Parablennius yatahei</i>		○			

綱	科	種名		東京	千葉	神奈川	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリス ト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名	多摩川 河口大田区側	浦安市日の 出地先	潮 彩の渚		
							カテゴリ	カテゴリ
	コチ	マゴチ	<i>Platycephalus sp.2</i>					
	ネズミゴ	ネズミゴチ	<i>Repomucenus curvicornis</i>		○			
	ギマ	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>			○		
	メダカ	ミナミメダカ	<i>Orizias latipes</i>				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
	タイ	キチス	<i>Acanthopagrus latus</i>					
		クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>			○		
	ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>	○				
	コイ	マルタ	<i>Pseudaspius brandtii maruta</i>					
		コイ(型不明)	-					
		ニゴイ属	-					
		ウグイ属	-					
	アジ	ギンガメアジ	<i>Caranx sexfasciatus</i>					
	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	○				
	ヒイラギ	ヒイラギ	<i>Nuchequula nuchalis</i>					
	フグ	クサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i>					
	シマイサギ	コトヒキ	<i>Terapon tibarua</i>			○		
	ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>			○		
鳥	ハト	カワラハト	<i>Columba livia</i>					
	カモ	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○				
	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○				
		コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>					
	サギ	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○				
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>					
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○				
	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>					
	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>						
	セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>					

表 8-3 干潟調査で確認された生物種（過年度との比較）

[illegible]

綱	科	種名		調査年				
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)
鳥	ハト シギ	カワラハト	<i>Columba livia</i>		○	○	○	
		チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○				
	カモ	キアシシギ	<i>Heteroskedus brevipes</i>	○		○		
		カルガモ	<i>Anas zonorhynchos</i>			○	○	○
	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○	○	○	○	○
		コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>			○	○	
	サギ	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		○	○	○	○
		コサギ	<i>Ardea cinnerea</i>	○	○	○	○	
		アササギ	<i>Ardea cinerea</i>			○	○	
	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax castro</i>	○	○	○	○	○
		メグイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>			○		
	ガラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corax</i>		○	○	○	
		ハシボトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	
	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○		
		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○		
	ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		○	○		
		ヒメツバ	<i>Alauda hircensis</i>	○	○	○	○	
	ムナシ	ムナシ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○		
		ハクセキレイ	<i>Monticola alba lugens</i>		○	○		
	アトリ	カワラビロ	<i>Chloris sinica</i>	○		○		

(4) カニ生息一斉調査について

令和6年度は2団体によりカニ生息一斉調査が実施されました（調査シートの例は図8-2）。なお、調査結果については干潟調査の結果（表8-2）に含まれています。

とうきょう わん せい そく いっ せい ちやうき ちやうき
東京湾 カニ生息一斉調査 調査シート
(参加者用)

1. 調査情報

調査した日時	年 月 日	時 分	調査した人	☐ 小学生未満 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大人
天気 / 気温	☐ 晴れ ☐ くもり ☐ 雨 / 気温			
調査した場所				
場所の様子	☐ 砂地 ☐ 泥地 ☐ ヨシ根 ☐ 林 ☐ 草地 ☐ 海水の水路 ☐ 石ころ ☐ コンクリート ☐ カキの群			

2. 観察された生き物

観察された生き物	発見数 (見つけたらチェック！)	見つけた場所の様子 カニの増減 (大きさ、色など)
チヌウカイミドリガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
マメコブシガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
クフサイソガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
タナノクフサイソガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
ハマガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
アシハラガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
アカデガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
クロベンケイガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
クシデガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
ウモレベンケイガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
イシガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
コメツキガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
チゴガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
オサガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
ヤマトオサガニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
その他、名前がわからないカニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	

種類が分からないときは、「干潟ベントスフィールド図鑑（日本国環境省発行全巻）」が参考になるよ！（カニの姿のイラストや、この図鑑のページが書いてあるよ！）
 裏面のスケッチ欄も使ってみてね！

もし気に入ったカニがいいたら、スケッチしてみよう！

カニの名前	
気に入ったポイント	

(ここに絵を書いてね)

※提出されたスケッチの一部は報告書「東京湾環境一斉調査の結果」に掲載されます。

~~~~~ ご参加されたカニ生息一斉調査についてアンケートにご協力ください！~~~~~

|                           |                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ご参加者のご年齢                  | <input type="checkbox"/> 19歳以下 <input type="checkbox"/> 20～29歳 <input type="checkbox"/> 30～39歳 <input type="checkbox"/> 40～49歳 <input type="checkbox"/> 50～59歳 <input type="checkbox"/> 60歳～ |
| お住まいの地域                   | <input type="checkbox"/> 東京都 <input type="checkbox"/> 埼玉県 <input type="checkbox"/> 千葉県 <input type="checkbox"/> 神奈川県 <input type="checkbox"/> その他( )                                         |
| ご参加のきっかけ<br>(複数回答可)       | <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> 電話・チラシ <input type="checkbox"/> SNS <input type="checkbox"/> その他( )                                     |
| 今回のカニ一斉調査の満足度             | <input type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> ややよかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> ややよくなかった <input type="checkbox"/> よくなかった                                |
| その他、ご意見・ご感想、改善点などお聞かせください |                                                                                                                                                                                              |

図 8-2 カニ生息一斉調査の調査シート

## 8-2 その他の調査

### (1) 調査参加機関

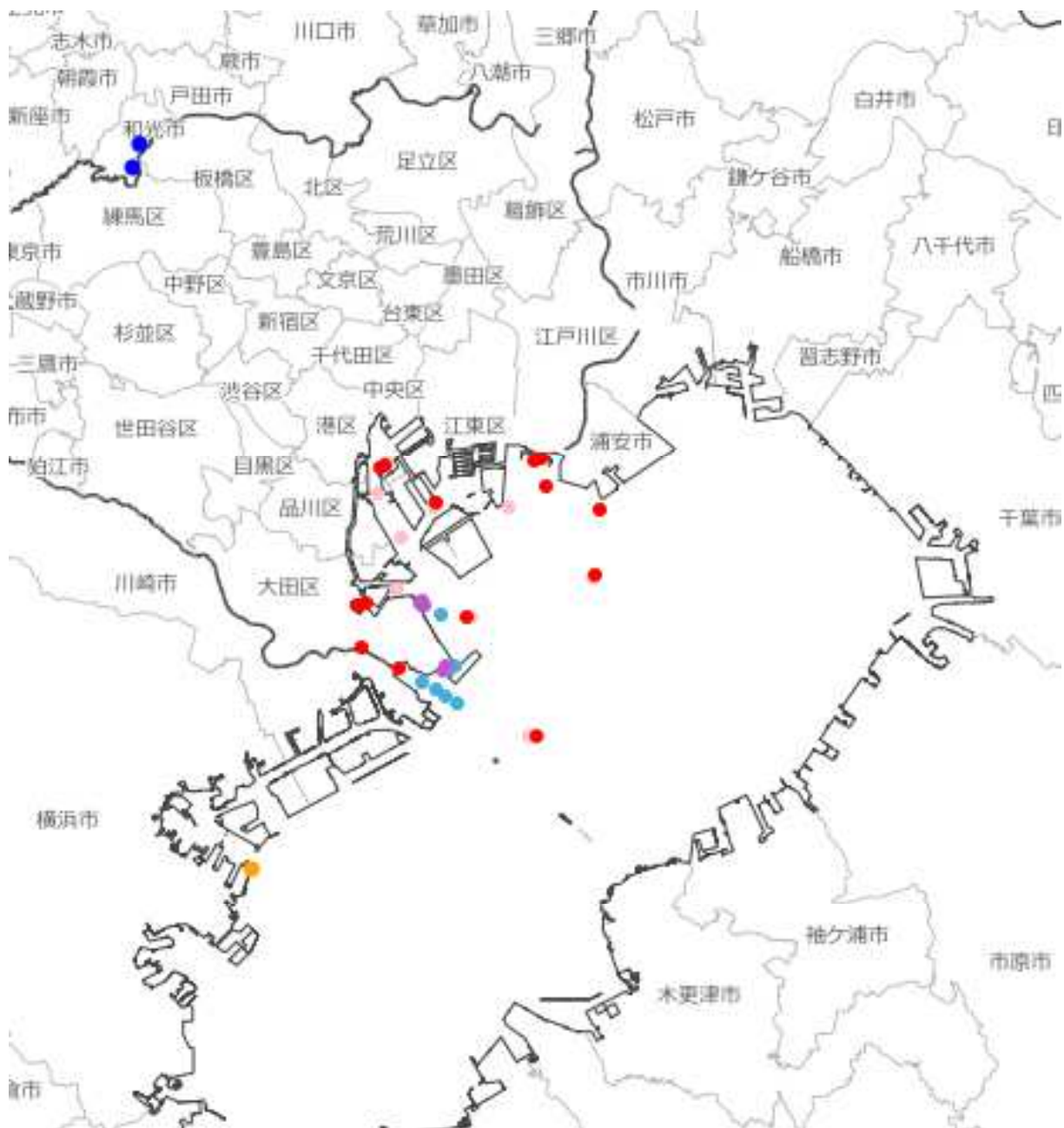
令和6年度は、4団体から干潟以外（河川、沖合など）の生物・プランクトン調査について報告がありました（表8-4）。

表 8-4 その他の調査の実施実績

| レポート番号<br>掲載ページ | 実施・主催機関                   | 調査場所・<br>地点名         | 実施日                                                         | 調査内容                                                 |
|-----------------|---------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ①<br>p. II-1    | 国土交通省関東地方整備局<br>東京空港整備事務所 | 東京湾内                 | (1) 8月8日<br>(2) 8月1日<br>8月8日                                | (1) 海底に生息する底生生物<br>(2) 浅場に生息する水生生物                   |
| ②<br>p. II-10   | 東京都環境局自然環境部<br>水環境課       | 東京湾内                 | (1) 8月13日<br>(2) 8月5日<br>(3) 9月27日<br>(4) 8月2日<br>(5) 8月19日 | (1) プランクトン<br>(2) 稚魚<br>(3) 成魚<br>(4) 鳥類<br>(5) 底生生物 |
| ③<br>p. II-19   | 東京都板橋区                    | 白子川<br>(東埼橋、<br>白藤橋) | 8月1日                                                        | 魚類、底生動物                                              |
| ④<br>p. II-30   | 横浜市港湾局                    | 横浜港本牧<br>沖           | 8月27日<br>8月28日                                              | 海藻類、水生生物<br>及び着生生物等                                  |

### (2) 調査実施地点

調査は、図 8-3 に示す地点で実施されました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院 (GSI)

- 国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所(海底底生生物) (報告書番号①)
- 国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所(浅場水生生物) (報告書番号②)
- 東京都環境局自然環境部水環境課(プランクトン調査) (報告書番号③)
- 東京都環境局自然環境部水環境課(東京都内湾部、浅海部、干潟部) (報告書番号④)
- 東京都板橋区(白子川(東埼橋、白藤橋)) (報告書番号⑤)
- 横浜市港湾局(横浜港本牧沖) (報告書番号⑥)

図 8-3 その他の調査の実施地点

### (3) 干潟以外の調査の結果

干潟以外の調査について、報告された結果の概要は以下のとおり。

- ① 国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所が羽田空港付近で行った底生生物調査では、シノブハネエラスピオ、ハナオカカギゴカイ、イトエラスピオ（環形動物門）、アサリ、アラムシロガイ等が確認された。
- ② 国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所が大田区で行った浅場生物調査では、ウミエラ目、ウミサボテン、アカニシ、イトマキヒトデ、シロボヤ、イソギンチャク目等が確認された。
- ③ 東京都が行ったプランクトン赤潮調査においては、細胞数では珪藻の *Skeletonema costatum* が最多となり、次いで *Chaetoceros* spp.、*Thalassiosira* spp. の順に多く確認された。動物プランクトンでは繊毛虫類の *Oligotrichida* が多く確認された。
- ④ 東京都が行った東京都の干潟部における稚魚調査においては、全地点でビリンゴ、マハゼ、ギマが確認された。東京都の内湾部、浅海部における成魚調査においては、ツバクロエイ、ホンビノスガイ、サルボウガイのみ確認された。東京都の内湾部、浅海部、干潟部における底生生物調査においては、ヤマトシジミ、アサリ、ホンビノスガイ等が確認された。成魚調査及び底生生物調査の海域は、下層で貧酸素状態、水底付近は無酸素状態の地点もあった。
- ⑤ 板橋区が白子川で行った調査では、魚類調査においては、二ホンウナギ、ドジョウ、ヌマチチブ等が確認された。底生動物調査においては、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、コオニヤンマ等が確認された。
- ⑥ 横浜市港湾局が行った横浜港本牧沖の調査では、珪藻綱、海綿動物門、イソギンチャク目、イトマキヒトデ、シロボヤ、ウスカラシオツガイ、ヒバリガイ、ホトトギスガイ等が確認された。



### 8-3 「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組

#### (1) 取組の概要

「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」が、様々な団体に観察結果の提供を呼びかけ、11団体が24地点において2024年に東京湾で観察した生物種の取りまとめを実施しました（表8-5）。

※一部には、8-1又は8-2との重複があります。

表 8-5 「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」が取りまとめた調査の実施実績

| レポート番号<br>掲載ページ | 実施・主催機関                                                                                                                                                                 | 調査場所・地点名                             | 実施日            |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------|
| ①<br>p. III-1   | 海をつくる会<br>大田区環境マイスターの会<br>公益財団法人日本野鳥の会<br>東京港水中生物研究会<br>NPO 法人生態教育センター<br>江戸川区こども未来館<br>浦安水辺の会・浦安三番瀬を大切にする会<br>浦安市三番瀬環境観察館<br>NPO 法人行徳ほごクラブ<br>ふなばし三番瀬環境学習館<br>日本安全潜水協会 | 東京湾全域<br>（追加報告として葛西臨海公園、多摩川河口、左近川含む） | 令和6年<br>1月～12月 |